

# 中風 風邪(ふうじゃ)が侵入して起こる

「中風(ちゅうふう)」は現在では脳卒中や脳血栓などの脳血管疾患とされます。突然倒れて半身不随になったり、言語障害を起こすなど後遺症が残りやすい病気で、江戸時代にはすでに、虚弱な体質や飲み過ぎ、食べ過ぎが原因で、色白で肥満気味の人が中風になりやすいと知られていました。

中国医学では風邪(ふうじゃ)という邪気が体に侵入して起こると考えられ、灸治療が有効と考えられていました。



江戸時代のちらしで、中風にかからない方法を教え、あわせて護符を販売する日を知らせている。